

令和4年11月実施

事業所名 和こう

		チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	81.3%	12.5%	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースが十分と感じられない ・保育室を3クラスに分けることで、子どもや職員の人数を分散している ・前年度と比較すると、子どもが密に集まることは少なく、支援を行えていると感じる
	2	職員の配置数は適切であるか	43.8%	18.8%	37.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の活動時間や食事介助の時間は、応援職員を含めると十分と感じるが、登園時や降園時等、応援職員が不在の時間帯に人数不足を感じる ・職員の配置基準を満たしてはいるが、提供している療育内容を考えると適切なのかどうか疑問を感じる ・安全に見守りが行えるように、環境設定や職員同士の声掛け等行ってはいるが、時間帯によっては見守りが十分に行えずに危険を感じる時がある
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	81.3%	0.0%	18.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化はされているが、情報伝達等の配慮の面では適切なのかどうかよくわからない
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	87.5%	0.0%	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・棚の整理整頓等、心がけているが乱雑である。危険防止を念頭に置き、環境を整えていく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	37.5%	18.8%	43.8%	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等に公開しているか	75.0%	0.0%	25.0%	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	31.3%	6.3%	62.5%	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	87.5%	12.5%	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・内部の研修は最低限設定されているが、他法人よりはかなり遅れているように感じる ・職員数が少なく、研修に行きにくい環境であるように感じる

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	87.5%	0.0%	12.5%	・支援計画を作成するにあたって、職員の主観で捉えないように、様々な職員の意見を集めている
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	75.0%	0.0%	25.0%	・アセスメントシートを作成し、使用している
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	81.3%	6.3%	12.5%	・家族支援や地域との連携も、まだまだできていないように思う。時間を作り、面談や会議、電話などももう少し多くしていくことが目標になるかと思う
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	68.8%	12.5%	18.8%	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	81.3%	12.5%	6.3%	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	81.3%	6.3%	12.5%	
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	81.3%	6.3%	12.5%	・朝礼時や終礼時に、支援内容の確認を行う機会を設け取り組んでいる
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	68.8%	18.8%	12.5%	・振り返りの時間が設けられず、できない時がある
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	81.3%	6.3%	12.5%	
20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	56.3%	12.5%	31.3%		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	62.5%	6.3%	25.0%	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアは必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	75.0%	6.3%	18.8%	
	24	(医療的ケアは必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	50.0%	6.3%	43.8%	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	87.5%	6.3%	6.3%	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	68.8%	12.5%	18.8%	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	37.5%	31.3%	31.3%	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0.0%	56.3%	43.8%	・感染症拡大予防のために行っていない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	12.5%	31.3%	56.3%	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	81.3%	0.0%	18.8%	・日々の連絡帳面、面談等で確認する機会を設けている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	50.0%	12.5%	37.5%	・ペアレントトレーニングについての説明は行っているが、まだ実践はされていない
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	68.8%	0.0%	31.3%	・説明会で配布している資料は確認しているが、説明会に参加していないため、その様子についてはよくわからない
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	81.3%	6.3%	12.5%	

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応しているか	87.5%	0.0%	12.5%	・必要に応じて面談等の機会を設けている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	87.5%	0.0%	12.5%	・和こうだけでなく、全体としての広報に記載して発信している
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100.0%	0.0%	0.0%	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	93.8%	0.0%	5.3%	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	37.5%	18.8%	43.8%	・感染症拡大予防のために行っていない
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	62.5%	12.5%	25.0%	・全体として行っているが、部署としてはあまり行っておらず、保護者にも伝達の機会があまり設けられていない
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか	81.3%	12.5%	6.3%	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	87.5%	6.3%	6.3%	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか	93.8%	0.0%	6.3%	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100.0%	0.0%	0.0%	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	93.8%	0.0%	6.3%	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	87.5%	0.0%	12.5%	

アンケート配布人数 16 人 回収人数 16 人 回収率 100 %

《 今年度の振り返りと評価 》

①感染対策を徹底し、療育内容を充実させていきます

コロナウイルス感染対策として、空気清浄機や紫外線照射機の使用、玩具や室内・車内の消毒、清掃を徹底して行い感染予防に努めました。今後も継続し清潔を維持します。療育では、小集団活動に加え、個々の興味・関心に合わせた机上活動の充実を図り設定療育の中に組み込みました。

②家族支援の向上と全職員での情報共有に努めます

今年度より統一したアセスメントツールを使用し個別支援計画の立案を行いました。ツールの使用により目標・支援方法など明確に課題を整理できるようになったことで、全職員が迅速に情報共有を行え、支援方法の周知・統一の促しがスムーズになりました。また、支援方法の統一により、ご家族の相談にもすぐに対応できるようになり、面会などを重ね解決に向けての手立てを一緒に考える機会も増えました。

療育技術向上に向け、勉強会や研修を計画し努力しておりますが、積極的に研修の機会を設けることができませんでした。次年度の課題としたいと思います。

③防災意識を高め、避難訓練を周知していきます

避難時に必要な物品チェックリスト・カードを作成し、実際に物品を全て揃えるにはどのくらい時間を要するのか等、実践を通して問題点改善の検討を重ねております。保護者の皆様へは「防災新聞」を通して取り組みの様子を周知させていただきました。

《 今後に向けての改善目標 》

①地域の保育所、認定こども園、幼稚園、学校などの関係機関と密な連携を図ります

ご家庭での困りごとや課題を、ご家族がお一人で悩みを抱え込まないよう、和こうをはじめ保育所等、支援機関、学校など、お子様を中心とした関係機関が情報共有を行い、積極的にご家族支援を行います。その際、地域社会で生活するうえでの平等の権利、享受とインクルージョンの考えに基づいて行動し、保育所等への訪問、研修会の開催など、可能な限り共に成長することができるよう努力します。

②療育内容の充実、質の向上を図ります

自主的な研修会への参加、勉強会の実施など意欲的に取り組みます。その学びを個々の特性に応じた具体的な支援方法に活かし、子どもへの療育につなげていきます。

また、家庭療育へも視野を広げ、面談やペアレントトレーニングなど家族のご要望に対応していきます。

③防災意識を高め、様々な災害を想定し、具体的な避難マニュアル作りを推進していきます

地震・水害・雪害などが発生した場合、それぞれのケースに応じた安全確保の手段や安全送迎を行うための手順など、明確に文章化していきます。また、引き続き「防災新聞」を通して防災に対する実践と取り組みを保護者の皆様と共有していきます。